

## 第71回 Kozoom28 「端午の節句に思う」

清水健二

5月5日は「子どもの日」で祝祭日になっているが、かつては「端午の節句」として男子を対象に、3月3日の女の子の「桃の節句と共に子供の健やかな成長と厄除けを願って、座敷に人形を飾り、家族全員でちらし寿司にハマグリの吸い物、菱餅やひなあられなどの菓子、甘酒等を食した。

端午の節句には五月人形や鯉のぼりを掲げ、柏餅やちまき等を食してお祝をしたものである。

鯉のぼりは元々、中国の故事にある登竜門に急流の滝を登る鯉の威勢を表現し、元気で達者

な男子に育つよう屋外に鯉の幟を上げた。江戸時代は武家社会だったので、男子を大事

にし 五月人形には鎧兜を飾ったり、「尚武」の心を育くむために「菖蒲湯」に浴したと言

う。特に武家屋敷では家の格を誇示するのに家紋旗や幟を掲げ何処からでも見えるように高

くした。一方、町人たちは遊び心から幟代わりに鯉を掲げ、魔除けや厄除けを理由に空高く

泳がせた。地の有力者や富豪の家では、豪華な吹き

流しと複数匹の鯉のぼりを掲げたという。また屋内

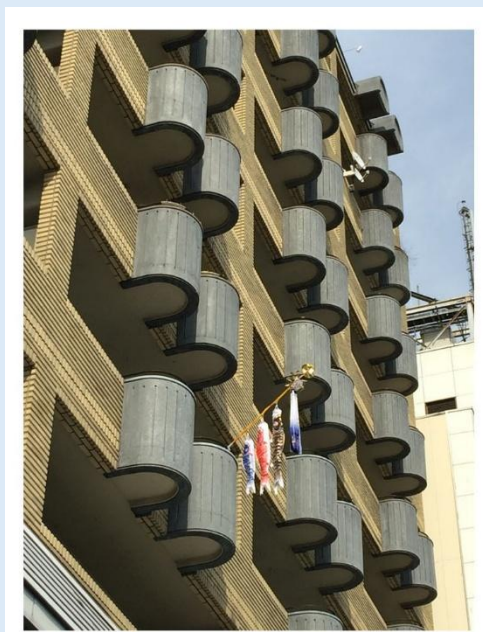
には様々な人形を飾り、男子の成長を祈願した。

やがて明治・大正・昭和になると広く庶民にも普及

していった。

近年になって家族構成や若者の都市への流出によっ

て、昔の住まいや広い屋敷も建て替えられて、雛人



マンションの鯉のぼり

形や五月人形・鯉のぼり等はお蔵入りになってしまった。これらの飾り物を近年、地方都市では町起こしに活用しようと持ち寄って、観光のツールとして、イベントを開催するところが増加してきた。一方、私の住む古い街はマンションが建ち小さなベランダにミニ



長屋路地の鯉のぼり

チュアの鯉のぼりが見られたり、今も戦後のハーモニカ長屋など共同住宅には窓越しに可愛い鯉のぼりが所どころにぶら下がっていて、我が子の成長を願う気持ちが伝わってきて微笑ましい。

10数年前、奈良・大和三山の一つ、天の香具山（標高150m程度）に登った時、山麓に建つ大和棟に高くなびく鯉のぼりを描いた私のスケッチがでてきたのでご笑覧頂きたい。最近ではこんな風景はほとんど見ることはできなくなってしまったが、前述したように個々に所有していた鯉のぼりを集めて、広大な規模で楽しめる行事に変化してきた。既に30年も前



香具山山麓の鯉のぼり

から、淀川の支流にあたる大阪・高槻市の芥川桜堤公園は、春の風物詩として有名で、約 1000 匹を超える鯉のぼりが、川を横断して風に吹かれて泳ぐ光景は圧巻である。私も何回か訪ねた思い出があるが、最近ではあちこちで同じような催しが見られるようになった。南河内の大和川支流の石川にも毎年掲げられている。風変わりなものでは、和歌山の串本町では漁港らしく海中に綱を張って鯉のぼりを泳がせ、ダイビングに興味のある人達を



富田林市石川の鯉のぼり

勧誘して観光に役立たせているのが、先日 TV で放映されていた。

また高野山の麓にある九度山町は、武将真田幸村ゆかりの地であり、桃の節句に飾るひな人形と五月人形を同時期に集め、町の歴史博物館へ各家庭から持ち寄って、古いものから新しいもの、



高槻市芥川の鯉のぼり

の、大小様々な人形を飾り、最近進出してきたフィギュア造形作家の作品も陳列して、観光に力を入れているのが紹介されていた。

近年、日本全域に亘り地方都市は家族構成も変化し、若者達の大都市への流出と少子化で、子



海中の鯉のぼり

沢山の多かった家庭も少なくなって子どもとの接し方も変化し、子どもたちも集まって遊んだり、見たり聞いたりして育ってきた昔と異なり、一人で何かをやる体験型の遊びになってきた。特にデジタル社会へ急進し多様化を尊重することから、共同で共有して事に当たるやり方が少なくなってきた。

日本の四季の変わり目になる節句の行事も、各家庭三世代を中心に行われてきた家族ぐるみの行事も薄れ、忘れ去られるような時代になってしまいかと思うと、日本の伝統文化の消失を淋しく感じている。

私の孫が1歳の誕生日を迎えた23年前、丁度端午の節句の頃に鯉のぼりの彫刻を制作してお祝いに贈ってあげた。健やかな成長を祈願した甲斐があって今年社会人



鯉のぼりの彫刻

になった。無事、母として我が娘の手も離れ、共々成長してくれたことをありがたく思っている。贈ってあげた作品がお守りになったのであろう。拙い作品だが私にとって思い出のものである。

令和8年5月 記